

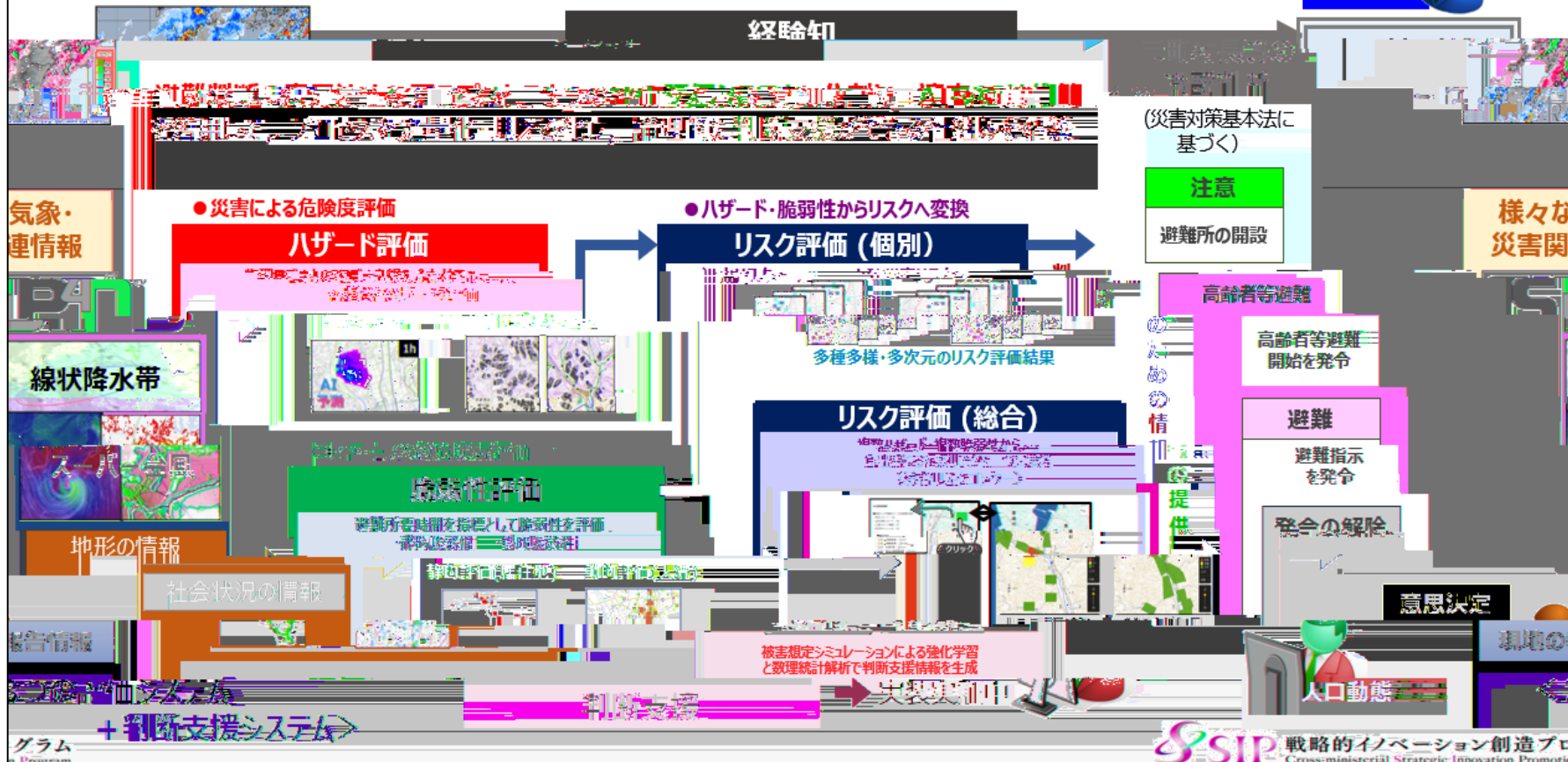
# 1. 市町村災害対応統合システム全体概要

## これまでの意思決定

気象庁の情報

雨・水位の気象・水象情報等から、これまでの経験を基に、各種災害の危険性を想定し、地域の状況を勘案して判断

意思決定



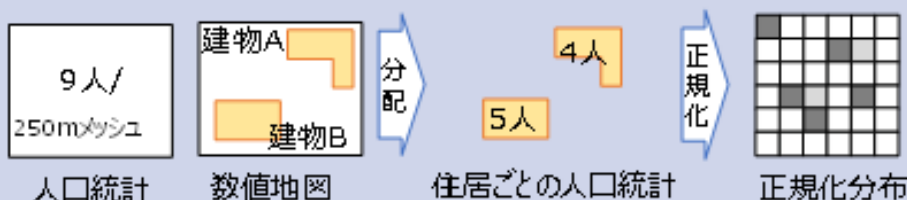
## 機能ブロック

## 2020年度までの実装

### (1) 暴露量の評価

(災害の影響を受ける住民の特性を評価)

- 国勢調査と住居の情報から静的な暴露量を評価  
 →人口と避難行動要支援者の割合から算出



### (2) 避難所要時間の算出

(避難所要時間を推定するAIモデルの開発)

- 暴露対象（住居）から最寄りの避難所までの避難経路を設定し、避難先および経路の情報から避難に要する



- 暴露量（静的）と避難所要時間から地域の脆弱性を50mメッシュ単位で評価

### (3) 避難における脆弱性評価 (脆弱性を相対的に評価)



## 6時間先までの予測を確認可能







# 大野城市ハザードマップ

掲載している災害情報

想定最大規模  
(L2版)

洪水浸水想定区域：想定最大規模(L2)  
内水浸水想定区域：想定最大規模(L2)  
土砂災害警戒区域・特別警戒区域

2019年  
(平成31年)  
2月作成



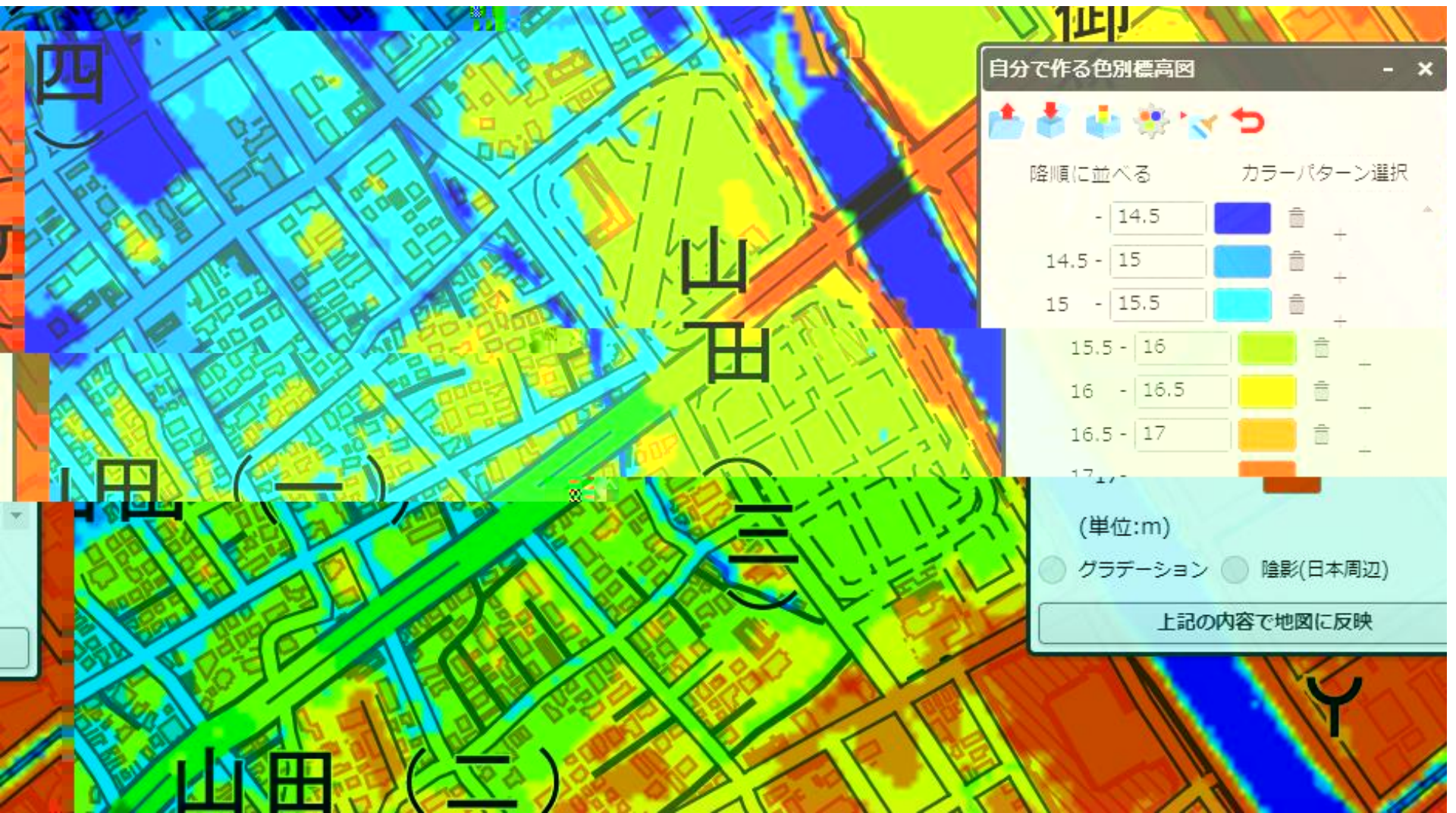
## 想定浸水深の目安

5m  
(2階軒下あたり)

3m  
(2階床下あたり)

0.5m  
(大人の膝あたり)





### 自分で作る色別標高図



降順に並べる	カラーパターン選択
- 14.5	<input type="checkbox"/>
14.5 - 15	<input type="checkbox"/>
15 - 15.5	<input type="checkbox"/>
15.5 - 16	<input type="checkbox"/>
16 - 16.5	<input type="checkbox"/>
16.5 - 17	<input type="checkbox"/>
17.5 -	<input type="checkbox"/>

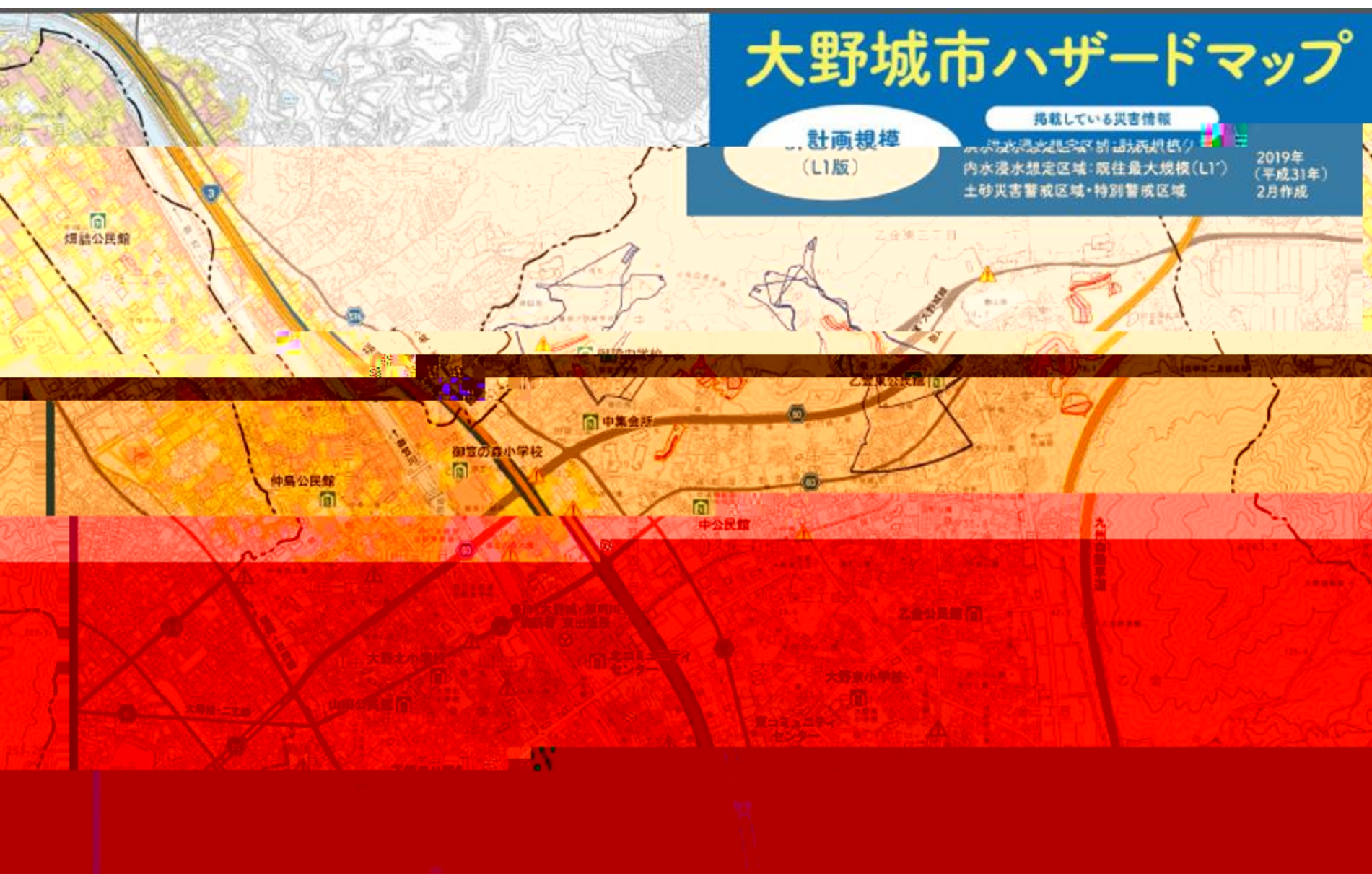
(単位:m)

- グラデーション  陰影(日本周辺)

上記の内容で地図に反映

# 土木学会／台風19号踏まえ提言／「多段階」で水害リスク明示

降雨量に応じ、どの領域がどの程度氾濫するかといった段階的な治水安全度が分かる「多段階リスク明示型浸水想定図（仮称）」の作成・公表を行政に要請。





水災害リスクを踏まえ

# 防災まちづくりのガイドライン

令和3年5月

国土交通省

国土交通省 国土政策部 国土政策課 国土政策課長 兼 国土政策課長 兼 国土政策課長 兼 国土政策課長

破堤点数

- 1 - 5
- 5 - 10
- 10 - 15
- 15 - 20
- 20 - 25
- 25 - 30
- 30 - 40
- 40 -

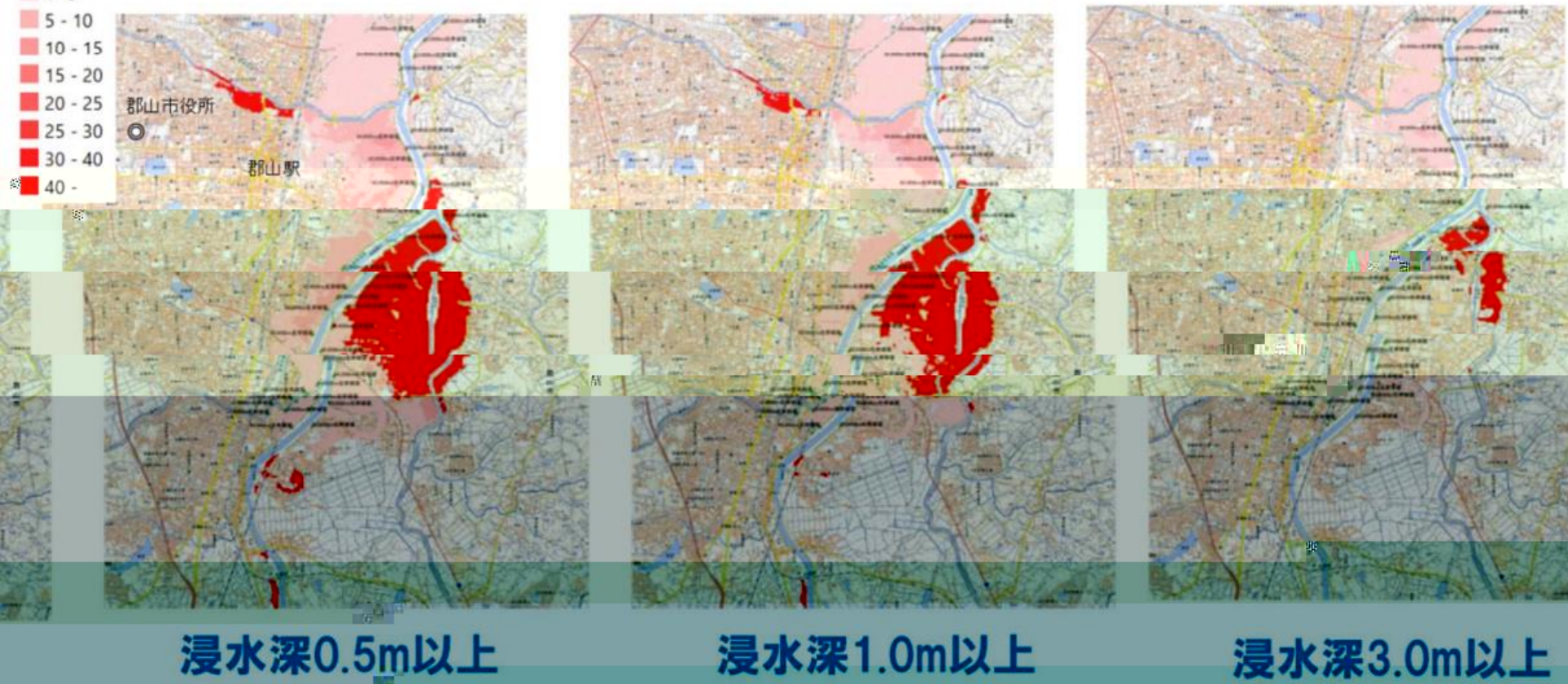


図 1-24 浸水想定区域図を用いた浸水しやすさの低い地域の評価の例

頻度ごとの浸水深分布



想定最大規模

計画規模

各頻度に応じて、  
浸水想定を多段階に表示

中頻度

高頻度

危険浸水深の発生しやすさ

